

普及支える添加剤技術

酒井重工業がアジア、アフリカ諸国などで道路工専用の路盤改良機「スタビライザー」の納入を拡大している。2010年の二カラグアから数えて、納入したスタビライザーの数は合計25台、相手国は同12カ国に達した。20年は新型コロナウイルス感染症に伴う渡航制限の影響を受けたが、増勢傾向に変わりはなく、「納入を通じて住民生活の向上や経済発展に貢献する。世界に貢献する当社の企業理念にも合致する」と渡辺亮介副社長海外事業本部長は語る。(編集委員・嶋田歩)

酒井重工が路盤改良機

20年10月、カンボジア向けに政府開発援助(ODA)を通じて納入したスタビライザーの引き渡し式には、カンボジアの公共事業運輸相、日本国大使らが出席した。「アジア諸国以外に、最近ではアフリカからも引き合いが多い。担当者や電子メールでやりとりしている」と渡辺副社長は語る。



相手国の住民生活の向上や経済発展に貢献 (ケニアに納入した路盤改良機)

は比較的整っているように見える。だが地方へ行くと、あぜ道やぬかるみの泥道しかない地域も多い。大雨が降ると車両走行は不可能になり、村落は孤立する。雨が乾いた後も車両が土煙をもうもうと巻き上げるため、洗濯物を干せずに悩んでいる家庭も多い。

「この作業を50年以上続けている当社の上手にかけている当社の『ウハウダ』と渡辺副社長は明かす。添加剤の配合率は土が砂地か粘土系か、赤土かなどにより変化するため、同社の社員は現場に3カ月とどまって作業することが多いという。

「この作業を50年以上続けている当社の上手にかけている当社の『ウハウダ』と渡辺副社長は明かす。添加剤の配合率は土が砂地か粘土系か、赤土かなどにより変化するため、同社の社員は現場に3カ月とどまって作業することが多いという。

「この作業を50年以上続けている当社の上手にかけている当社の『ウハウダ』と渡辺副社長は明かす。添加剤の配合率は土が砂地か粘土系か、赤土かなどにより変化するため、同社の社員は現場に3カ月とどまって作業することが多いという。

はベトナム、ラオスなど契約した。コロナ禍で建設機の見本市は大半が中止され、PRもままならない状態。一方で公共工事は予定通り執行されるケースが多い。ODAの納入は建機メーカーにとって、見本市代わりのPR機会にもなる。

経済成長で、途上国や首都近辺の高速道路をローラーで固めたい。

「この作業を50年以上続けている当社の上手にかけている当社の『ウハウダ』と渡辺副社長は明かす。添加剤の配合率は土が砂地か粘土系か、赤土かなどにより変化するため、同社の社員は現場に3カ月とどまって作業することが多いという。

「この作業を50年以上続けている当社の上手にかけている当社の『ウハウダ』と渡辺副社長は明かす。添加剤の配合率は土が砂地か粘土系か、赤土かなどにより変化するため、同社の社員は現場に3カ月とどまって作業することが多いという。

アジア・アフリカで納入増